

各報道機関文教担当記者 殿

平成25年度 文部科学省 「地（知）の拠点整備事業」に採択

このたび、文部科学省平成25年度「地（知）の拠点整備事業」において、本学から申請した以下の事業が採択されましたので、お知らせします。

事業名称	: 地域の感性を備えた人材を育て社会を繋ぐ「地（知）」の拠点
連携自治体	: 石川県, 金沢市, 輪島市, 珠洲市, 能登町, 穴水町, 七尾市, 能美市, 小松市
協力大学	: 石川県立大学

金沢大学は、①教育、②研究、③社会貢献の側面から、総合大学の強みを発揮しながら、地域を知り地域と共に歩く人材を育成し、地域と丁寧な対話による地域課題の解決に寄与するとともに社会人の学びの場を提供することにより、本学の「知」を活用した地域の拠点を整備します。（事業期間：平成25年度～29年度の5年間）

地域志向の教育・研究・社会貢献を複合的に発展させることにより、少子化・高齢化など当該地域の課題解決を起点として、将来的にはグローバルな課題解決につなげていくことを目指します。

【金沢大学のCOC事業の特徴】

- ① **教育**・・・共通教育科目として「総合地域論」を開設し、そのコア科目「地域概論」を全新入生必修とします。これにより、地域の感性を備え、知識と社会を結びつけることのできる行動力ある人材を育成します。
- ② **研究**・・・専門のコーディネーターを置き、地域が抱えるニーズと大学の持つシーズの丁寧なマッチングを行い、課題解決につながるよう地域志向の研究を推進することにより、研究成果の社会還元に取り組みます。
- ③ **社会貢献**・・・若者、現役世代、熟年層の「学びなおし」に対応できるよう、県内どこに住んでいても生涯学習の機会を得ることができるインテリジェントライフ創造の拠点構築を目指します。

（参考）文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」とは

大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

本件照会先： 総務部総務課地域連携担当 竹田 TEL 076-264-5905

担当： 広報戦略室 福田 TEL 076-264-5024

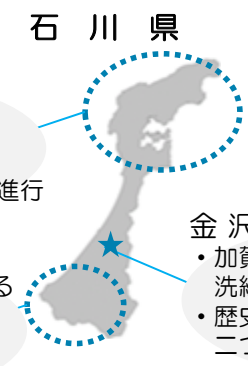
石川県の様々な地域の現状と課題

■日本の「1%」・日本社会の縮図としての石川県
47都道府県中(人口34位、県民総生産31位、面積35位)

【金沢市】人口の集中と都市化
- 県内人口の約40%が金沢市に集中
⇒都市化による諸課題、中核都市としての機能強化

【加賀地域】県内工業出荷額の約80%が集中(※金沢以南)
- IT機器、建設機械、産業用機械等に強み
⇒基幹産業としての「ものづくり」の地盤沈下

【能登地域】豊かな自然環境を維持
- 先進国初の世界農業遺産に認定
⇒人口減少・高齢化の進展、20歳人口の激減



石川県

能登
・三方海に囲まれた
里山里海・伝承文化
・少子高齢化・過疎化が
全国より早いペースで進行

加賀
・特定分野で高いシェアを誇る
多数のニッチトップ企業
・中心市街地の空洞化や
農林水産業の後継者不足

金沢
・加賀百万石時代からの
洗練された文化・工芸
・歴史都市と創造都市の
二つの側面からのシレンマ

地域と密な関係を構築

<金沢大学憲章で地域志向を打ち出す>
地域と世界に開かれた教育重視の研究大学

■COC事業連携自治体
(包括連携協定など
現在までの連携実績から)

- ・石川県
- ・金沢市
- ・輪島市
- ・能登町
- ・能美市
- ・珠洲市
- ・穴水町
- ・小松市
- ・七尾市

地

地域を知り地域と共に歩く人材を育成し、丁寧な対話による地域課題の解決に寄与し、
社会人の学びの場を提供する大学

金沢大学

教育・研究・社会貢献 から地域の活性化に寄与

【教育】
地域の感性を備えた人材を育成する大学

全新入生対象を対象とした地域志向の必修科目
共通教育における地域志向科目のパッケージ化

【社会貢献】
生涯学習の拠点となる大学

地域の教育ニーズに応じた科目の提供
キャリアアップに繋がる科目の提供
遠隔教育システムの活用

【研究】
地域の知的基盤として機能する大学

地域課題の発掘
ニーズとシーズの複合的マッチング
地域との協働による地域研究の推進

【教育】
地域課題の発掘
ニーズとシーズの複合的マッチング
地域との協働による地域研究の推進

地域再生の核となる大学

地域再生のための『対話の場』として
恒常的に機能するシステムを構築

